

(11)特許出願公開番号

特開2001-300

(P2001-300A)

(43)公開日 平成13年1月9日(2001.1.9)

(51) Int.Cl.

識別記号

FI

テーク・アウェイ (参考)

A 4 7 G 19/22

A47G 19/22

M 3B001

21/18

21/18

3 B 1 1 5

審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平11-175777

(22)出題日 平成11年6月22日(1999.6.22)

(71)出願人 599086375

安井 郁雄

静岡県浜松市大島町1260

(72)発明者 安井 郁雄

静岡県浜松市大島町1260

(72)發明者 茶谷 陽子

静岡県浜松市大島町1260

(74) 代理人 100064344

弁理士 岡田 英彦 (外3名)

Fターム(参考) 3B001 AA40 CC15 CC23

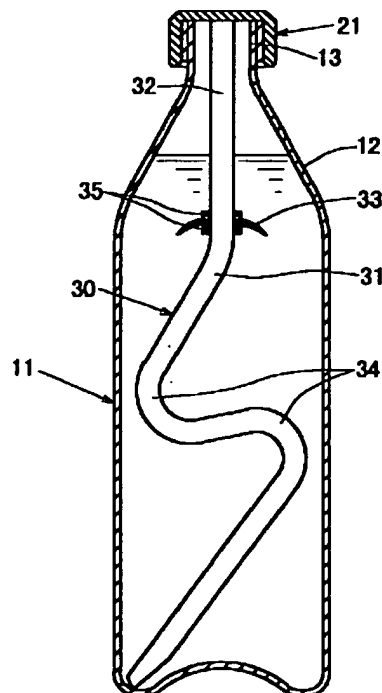
3B115 AA15 AA17 AA22 BA18 DB20

(54) 【発明の名称】 飲料容器装置とその飲料用ストロー

(57) 【要約】

【課題】 容器本体の飲料物を飲料用ストローを用いて吸飲する場合、その度毎に飲料用ストローを容器本体の開口部から差し込んで吸飲する煩わしさを解消する。

【解決手段】 飲料用ストロー３０は、容器本体１１の高さ寸法よりも適宜に長いパイプ状のストロー本体３１と、そのストロー本体３１の上部寄りの外周に張り出されたストップフランジ３３とを有する。ストロー本体３１は、開閉キャップ２１が装着されたときに収縮して容器本体１１に収納されるように伸縮部３４を有する。開閉キャップ２１が取り外されたときには、ストップフランジ３３が開口部１３の内側周縁部に当接しかつストロー本体３１の吸い口部３２が容器本体１１の開口部１３から突出する位置まで伸長するように、ストロー本体３１が弾発手段３４によって弾発されている。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 飲料物が収納されかつ上部に開口部が形成された容器本体と、その容器本体の開口部外周に取り外し可能に装着される開閉キャップと、前記容器本体の開口部から底部にわたって挿入される飲料用ストローとを備え、

前記飲料用ストローは、前記容器本体の高さ寸法よりも適宜に長いパイプ状のストロー本体を有し、

前記ストロー本体には、前記容器本体の開口部に前記開閉キャップが装着されたときに収縮して同容器本体に収納されるように伸縮部を有し、

前記容器本体の開口部に前記開閉キャップが取り外されたときには、同ストロー本体の吸い口部が前記容器本体の開口部から突出する位置まで伸長するように、前記ストロー本体が弾発手段によって弾発されている飲料容器装置。

【請求項2】 飲料物が収納されかつ上部に開口部が形成された容器本体と、その容器本体の開口部外周に取り外し可能に装着される開閉キャップと、前記容器本体の開口部から底部にわたって挿入される飲料用ストローとを備え、

前記飲料用ストローは、前記容器本体の高さ寸法よりも適宜に長いパイプ状のストロー本体と、そのストロー本体の上部寄りの外周に張り出されたストップフランジとを有し、

前記ストロー本体は、前記容器本体の開口部に前記開閉キャップが装着されたときに収縮して同容器本体に収納されるように伸縮部を有し、

前記容器本体の開口部に前記開閉キャップが取り外されたときには、前記ストップフランジが前記開口部の内側周縁部に当接しかつ同ストロー本体の吸い口部が前記容器本体の開口部から突出する位置まで伸長するように、前記ストロー本体が弾発手段によって弾発されている飲料容器装置。

【請求項3】 請求項2に記載の飲料容器装置であって、飲料用ストローのストップフランジは、開閉キャップが取り外されたときに容器本体の開口部の内側周縁部に密接して容器本体内の飲料物の流出を阻止するとともに、容器本体に対する外気の流入は許容する弁機能を有している飲料容器装置。

【請求項4】 請求項1に記載の飲料容器装置に用いられる飲料用ストローであって、ストロー本体には弾発手段によって伸長される伸縮部が設けられている飲料用ストロー。

【請求項5】 請求項2又は3に記載の飲料容器装置に用いられる飲料用ストローであって、ストロー本体には、そのストップフランジよりも下の部分に弾性伸縮部を有し、その弾性伸縮部によって弾発手段が構成されている飲料用ストロー。

【請求項6】 請求項2又は3に記載の飲料容器装置に

2

用いられる飲料用ストローであって、ストロー本体の上部寄りの外周に張り出されたストップフランジは、密封性にすぐれる弾性体より形成されている飲料用ストロー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、ジュース、コーラ、お茶、コーヒー等の飲料物が収納されかつ上部に開口部が形成された容器本体と、その容器本体の開口部外周に開閉可能に装着される開閉キャップと、容器本体の開口部から底部にわたって挿入される飲料用ストローとを備えた飲料容器装置と、その飲料用ストローに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、飲料容器には、ジュース、コーラ、お茶、コーヒー等の飲料物が収納される容器本体と、その容器本体の開口部の外周にねじ込みによって開閉可能に装着された開閉キャップとを備えた構造のものが知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】このような飲料容器において、その容器本体の飲料物を飲料用ストローを用いて吸飲する場合には、飲料容器とは別に保管された飲料用ストローを容器本体の開口部から差し込んで吸飲していた。また、容器本体に飲料物が残された状態で開閉キャップを装着する場合、容器本体から飲料用ストローを抜き取った後、その容器本体の開口部に開閉キャップをねじ込んでいた。また、前記抜き取った使用済みの飲料用ストローは、衛生管理して保管することが厄介なため、通常、使用済みの飲料用ストローは破棄していた。このため、容器本体の飲料物を飲料用ストローを用いて吸飲する場合には、その度毎に別の飲料用ストローを容器本体の開口部から差し込んで吸飲しなければならず、不便であった。

【0004】この発明の目的は、前記従来の問題点に鑑み、容器本体の飲料物を飲料用ストローを用いて吸飲する場合、その度毎に飲料用ストローを容器本体の開口部から差し込んで吸飲する煩わしさを解消することができ、飲料容器装置とその飲料用ストローを提供することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するために、第1の発明に係る飲料容器装置は、請求項1に記載のとおりの構成を要旨とする。したがって、容器本体の開口部に開閉キャップをねじ込んで装着したときには、ストロー本体の伸縮部が、弾発手段の弾発力に抗して縮小し、容器本体の内部に収納される。また、容器本体の開口部から開閉キャップを取り外したときには、弾発手段の弾発力によってストロー本体の吸い口部が容器本体の開口部から突出する。

3

【0006】また、第2の発明に係る飲料容器装置は、請求項2に記載のとおり構成を要旨とする。したがって、容器本体の開口部に開閉キャップをねじ込んで装着したときには、ストロー本体の伸縮部が、弾発手段の弾発力に抗して縮小し、容器本体の内部に収納される。また、容器本体の開口部から開閉キャップを取り外したときには、弾発手段の弾発力によってストロー本体のストッパフランジが前記開口部の内側周縁部に当接しかつストロー本体の吸い口部が容器本体の開口部から突出する。

【0007】第3の発明に係る飲料容器装置は、請求項3に記載のとおり構成を要旨とするもので、飲料用ストローのストッパフランジは、開閉キャップが取り外されたときに容器本体の開口部の内側周縁部に密接して容器本体内の飲料物の流出を阻止するとともに、容器本体に対する外気の流入は許容する弁機能を有している。したがって、容器本体の開口部に突出された吸い口部により容器本体の飲料物を吸飲すると、容器本体の内部が負圧となる。すると、ストッパフランジが有する弁機能によって外気が容器本体内に流入する。このため、容器本体が外気圧によって押し潰されたり、容器本体の飲料物が吸飲し難くなる不具合を防止することができる。また、容器本体が転倒した場合には、ストッパフランジによって容器本体内の飲料物が流出することを阻止することができ、ストロー本体の吸い口部の狭い開口部から飲料物が流出するのみにとどめることができる。

【0008】第4の発明に係る飲料用ストローは、請求項4に記載のとおり構成を要旨とするもので、ストロー本体には弾発手段によって伸長される伸縮部が設けられている。したがって、飲料用ストローを市販の飲料容器の容器本体に差し込んで使用することもできる。

【0009】第5の発明に係る飲料用ストローは、請求項5に記載のとおり構成を要旨とするもので、ストロー本体には、そのストッパフランジよりも下の部分に弾性伸縮部を有し、その弾性伸縮部によって弾発手段が構成されている。したがって、飲料用ストローを市販の飲料容器の容器本体に差し込んで使用することもできる。

【0010】第6の発明に係る飲料用ストローは、請求項6に記載のとおり構成を要旨とするもので、ストロー本体の上部寄りの外周に張り出されたストッパフランジは、密封性にすぐれる弾性体より形成されている。したがって、密封性にすぐれる弾性体よりストッパフランジが形成されることで、そのストッパフランジによって弁機能が確実に得られる。しかも、容器本体の飲料物が空になったときには、その容器本体の開口部から飲料用ストローのストッパフランジを弾性変形させて容易に抜き取ることができるとともに、その飲料用ストローを別の容器本体に差し込んで容易に再使用することができる。

【0011】

4

【発明の実施の形態】この発明の実施の形態を図面に示して説明する。図1～図3において、飲料容器装置は、容器本体11、開閉キャップ21及び飲料用ストロー30を備えている。容器本体11は、合成樹脂やガラスによって有底の筒状に形成され、その上部寄り部分にはテーパ状の絞り部12が形成され、その絞り部12の上端には飲料物が出し入れされる開口部13が形成されている。容器本体11の開口部13の外周面には開閉キャップ21がねじ込みによって取り外し可能に装着されている。

10

【0012】飲料用ストロー30は、ストロー本体31とストッパフランジ33とを一体状に備えている。ストロー本体31は、容器本体11の高さ寸法よりも適宜に長くかつ弾性を有する合成樹脂製パイプより形成されている。そして、ストロー本体31の上部寄りの外周には留め具35によって固定された状態でストッパフランジ33が張り出されている。また、ストロー本体31は、容器本体11の開口部13に開閉キャップ21が装着されたときに収縮して同容器本体11に収納されるように伸縮部を有している。また、容器本体11の開口部13から開閉キャップ21が取り外されたときには、ストッパフランジ33が開口部13の内側周縁部、すなわち、絞り部12の上部内周面に当接し、かつストロー本体31の吸い口部32が容器本体11の開口部13から突出する吸飲位置まで伸長するように弾発手段によって弾発されている。

20

【0013】この実施の形態において、ストロー本体31には、そのストッパフランジ33よりも下の部分に弾性伸縮部34を有し、その弾性伸縮部34によって弾発手段が構成されている。すなわち、図1に示すように、弾性伸縮部34は、伸縮可能にSの字状に屈曲されて容器本体11内に収納されている。また、ストッパフランジ33は、密封性及び弾性にすぐれる合成樹脂、ゴム等の弾性体より円形皿形状に形成されている。そして、図2に示すように、容器本体11の開口部13から開閉キャップ21が取り外されたときには容器本体11の開口部13の内側周縁部に密接して容器本体11内の飲料物の流出を阻止するとともに、容器本体11に対する外気の流入は許容する弁機能を有している。なお、ストロー本体31の下端開口部は、容器本体11の底面によって塞がれることがないように、例えば、斜めに形成されている。

30

40

【0014】この実施の形態に係る飲料容器装置は上述したように構成される。したがって、図1に示すように、容器本体11の開口部13に開閉キャップ21がねじ込まれて装着された状態にあるときには、ストロー本体31の上部の吸い口部32上端が開閉キャップ21に押し下げられ、同ストロー本体31の弾性伸縮部34がS字状に弾性縮小されて容器本体11の内部に収納される。また、図2に示すように、容器本体11の開口部1

50

5

3から開閉キャップ21が取り外されたときには、ストロー本体31の弾性伸縮部34の弾性収縮に基づく弾発力によって、同弾性伸縮部34が伸長する。これによって、ストロー本体31のストッパフランジ33が容器本体11の絞り部12の上部内周面に当接し、この状態において、弾性伸縮部34の伸びが止められる。そして、ストロー本体31の上部の吸い口部32が容器本体11の開口部13から突出する。このため、容器本体11の飲料物を、飲料用ストロー30を用いて容易に吸飲することができる。

【0015】前記したように、容器本体11の開口部13に開閉キャップ21をねじ込んで装着したときには、ストロー本体31の弾性伸縮部34が弾性縮小して容器本体11の内部に収納され、容器本体11の開口部13から開閉キャップ21を取り外したときには、ストロー本体31の吸い口部32が容器本体11の開口部13から突出する。このため、従来と異なり、容器本体11の飲料物を飲料用ストローを用いて吸飲する場合、その度毎に飲料用ストローを容器本体11の開口部から差し込んで吸飲する煩わしさを解消することができ、便利である。

【0016】また、この実施の形態において、ストロー本体31のストッパフランジ33が有する弁機能によって、容器本体11の開口部13に突出された吸い口部32により容器本体11の飲料物を吸飲すると、容器本体11の内部が負圧となる。すると、ストッパフランジ33を弾性的に変形させながら外気が容器本体11内に流入する。このため、容器本体11が外気圧によって押し潰される不具合を防止することができるとともに、容器本体11の飲料物を良好に吸飲することができる。また、容器本体11が転倒した場合には、容器本体11の開口部13の内側周縁部に密接しているストッパフランジ33によって容器本体11内の飲料物の流出を阻止することができ、ストロー本体31の吸い口部32の狭い開口部から飲料物が流出するのみにとどめることができる。

【0017】また、容器本体11の飲料物が空になったときには、容器本体11から飲料用ストロー30を抜き取り、その飲料用ストロー30を別の容器本体11に差し込んで再度使用することができる。また、使用していない飲料用ストロー30を市販の飲料容器の容器本体に差し込んで使用することもできる。

【0018】なお、前記実施の形態において、図3に示すように、飲料用ストロー30のストロー本体31のストッパフランジ33よりも下の部分に形成された弾性伸縮部34が弾性的に伸縮可能にSの字状に屈曲されて容器本体11内に収納される場合を例示したが、これに限定するものではない。例えば、図4に示すように、飲料用ストロー30のストロー本体31のストッパフランジ33よりも下の部分に形成された螺旋状の弾性伸縮部3

6

4が弾性的に伸縮可能に容器本体11内に収納されてもよい。また、飲料用ストロー30のストロー本体31のストッパフランジ33よりも下の部分を所要とする長さだけ蛇腹状に形成し、その蛇腹部に金属製のコイルバネを内設して弾性的に伸縮可能な弾性伸縮部を構成することも可能である。

【0019】また、図5の(A)及び(B)に示すように、飲料用ストロー30のストロー本体31を、複数本のパイプ31a、31b、31cによって伸縮可能に形成し、これら複数本のパイプ31a、31b、31cの間にコイルスプリング36をそれぞれ介在させて伸長方向に弾発してもよい。この場合、最上段のパイプ31aの外周面にストッパフランジ33が留め具35によって設けられる。また、図6に示すように、容器本体11の開口部13の内壁面と飲料用ストロー30のストッパフランジ33の間に、同ストッパフランジ33を容器本体11の開口部13の内側周縁部に圧接させ、かつストロー本体31の吸い口部32を容器本体11の開口部13から突出させる弾発手段を構成するためのゴム38を張設してもよい。この場合、ストロー本体31のストッパフランジ33よりも下の部分には、ストロー本体31の上下動にともなう伸縮(屈曲等も含む)する伸縮部、例えば、蛇腹状の伸縮部37が設けられる。

【0020】また、ストロー本体31が柔軟な合成樹脂パイプより形成され、そのストロー本体31の外側又は内側に金属製又は合成樹脂製の弾性伸縮(弾性屈曲等も含む)可能なバネ材を付設して飲料用ストロー30を構成することもできる。また、前記実施の形態では、ストロー本体31の上部寄り外周面にストッパフランジ33が形成される場合を例示したが、ストッパフランジ33は必ずしも設けなくてもよい。

【0021】

【発明の効果】以上述べたように、この発明によれば、容器本体の内部に対し飲料用ストローを収納可能にするとともに、容器本体の開口部に対し開閉キャップが取り外されたときには、飲料用ストローの吸い口部が容器本体の開口部から突出する。このため、従来と異なり、容器本体の飲料物を飲料用ストローを用いて吸飲する場合、その度毎に飲料用ストローを容器本体の開口部から差し込んで吸飲する煩わしさを解消することができ、便利である。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施の形態に係る飲料容器装置における容器本体の開口部に開閉キャップを装着した状態を示す縦断面図である。

【図2】同じく容器本体の開口部から開閉キャップを取り外した状態を示す縦断面図である。

【図3】同じく飲料用ストローを示す説明図である。

【図4】同じく飲料用ストローの弾性伸縮部が螺旋状に形成された実施態様を示す説明図である。

【図5】同じく飲料用ストローが複数本のパイプによって伸縮可能に構成された実施態様を示す説明図である。

【図6】同じく容器本体の開口部と飲料用ストローのストッパフランジとの間に弾性手段としてのゴムが張設された実施態様を示す縦断面である。

【符号の説明】

11 容器本体

13 開口部

21 開閉キャップ

30 飲料用ストロー

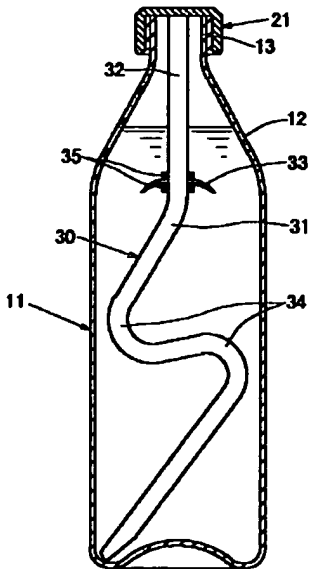
31 ストロー本体

32 吸い口部

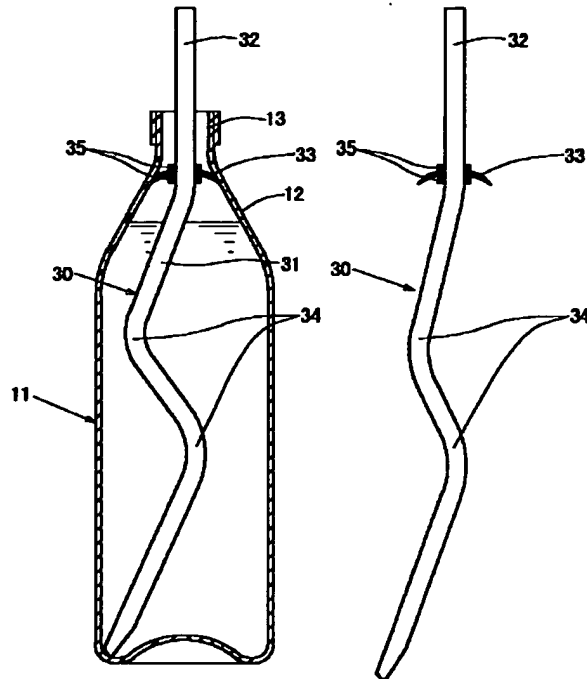
33 ストッパフランジ

34 弾性伸縮部（伸縮部）

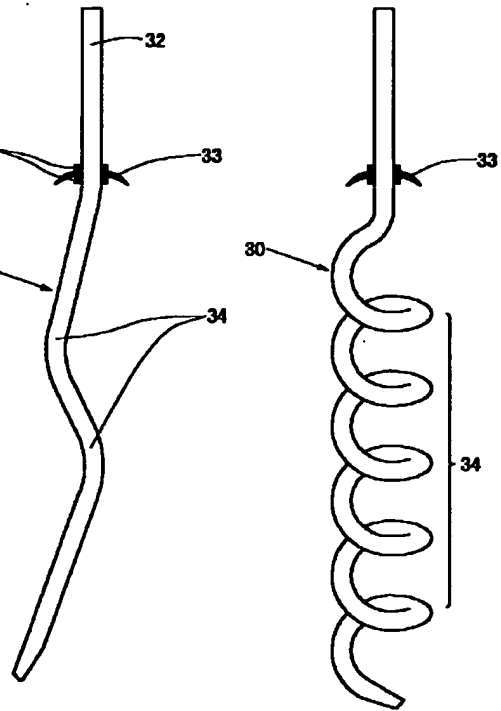
【図1】



【図2】

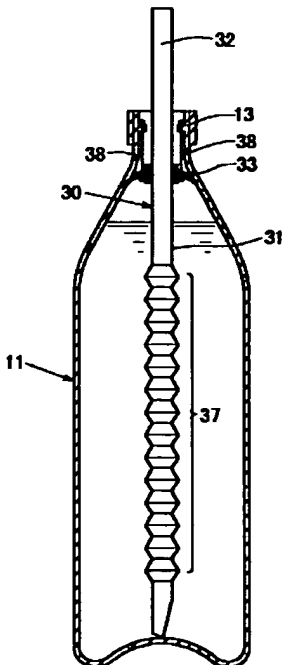


【図3】



【図4】

【図6】



【例5】

